

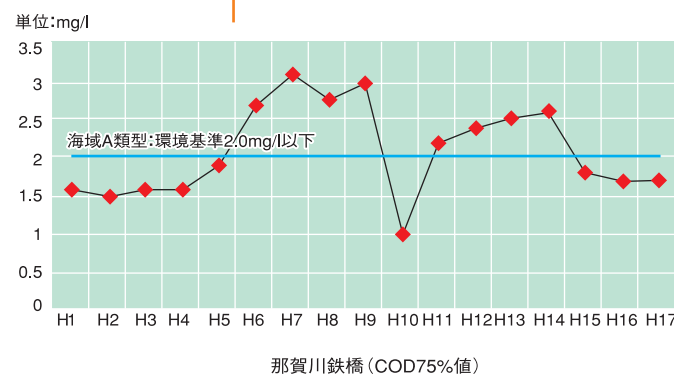
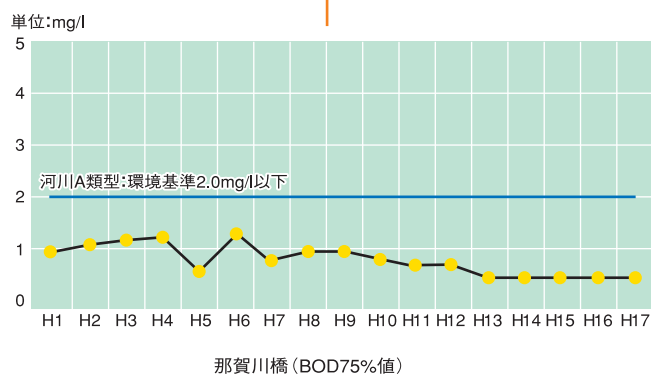
2. 那賀川下流部の河川環境

那賀川下流部には開けた平野が広がり、周囲の市街地や田園のなかで河口域特有の雄大な景観がみられます。ここでは那賀川下流部の河川環境として、水質、水温・気温、魚介類相について紹介します。

(1) 水質

那賀川下流部では、大京原橋を境に上流の川口ダムまでが河川A類型、大京原橋より下流が海域A類型に指定されています。河川A類型とは「沈殿ろ過等の通常の施設により水道水として使用できるような水質」、海域A類型とは「水浴に支障のない水質」と表現されます。

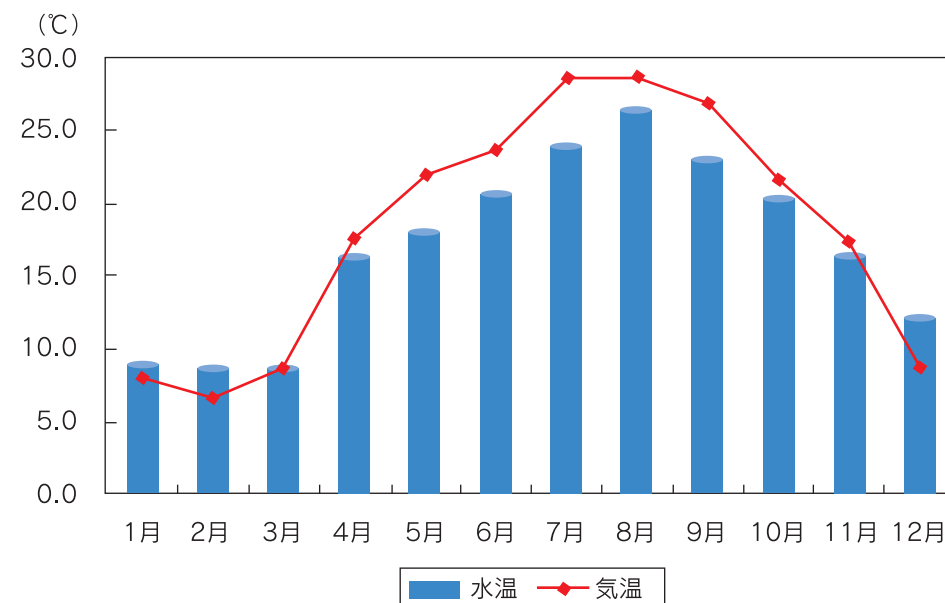
環境基準地点である那賀川橋では、平成17年の水質調査において0.6mg/l (BOD75%値) となり、水質の良さは穴吹川に次いで四国第2位となっています。しかしながら、那賀川鉄橋では、海域A類型の環境基準である2mg/l以下のCOD値を満足していない年があります。



■ 那賀川下流部の水質経年変化

(2) 気温・水温

流域内の気候は一部の高地を除いて、平均気温は14℃～17℃と温暖です。那賀川鉄橋地点の月別水温を見ると、1～3月は8℃台と低く、8月には25℃以上まで上昇しています。最低水温と最高水温の温度差は約18℃になります。



■ 那賀川鉄橋地点における月別気温・水温の推移 (過去5年間平均値)

(3) 魚介類相

那賀川下流部は交互砂州が形成されており、瀬と淵が連続した河川形態となっています。水域にはアユ、ウグイ、サツキマス、カジカ小型回遊型 (ウツセミカジカ) 等の魚類が生息しており、河口から6km付近はアユの産卵場となっています。また、河口から潮止め堰までの間は淡水と海水が混ざり合う汽水域となっており、マハゼ、ボラ、スズキといった魚類が生息しています。



■ 下流部の交互砂州



■ 那賀川河口域



■ アユ

■ カジカ小型回遊型

■ マハゼ

■ ボラ